



# コタンメール 55号

平成 22 年 6 月 18 日 発行

## ボランティア解説員へ嬉しい便り

当館では、5名のボランティア解説員が活動していますが、先月、兵庫県の方から解説のお礼状が届きました。嬉しいそのお手紙の全文をご紹介します。

「前略 御免下さい。

前日(5/6)は貴館訪問に際し長時間にわたって、ご丁寧なガイドを賜り、家族一同感激を致しました。厚くお礼を申し上げます。

私は、この旅行を自分の人生で最大、最高の旅として、北海道を選定し、貴所を訪れました。私は49才で脳梗塞を発症した半身マヒとなり20年が経ち、昨年は心臓血管バイパス手術を受け、旅は困難かと思っただけでも一時ありましたが、このたびは医師の了解を得ての旅で一人娘によるレンタカーでの周遊でした。貴方様の理解し易いご説明、館内の展示品の見易さ他、様々な心遣いが伝わって参りました。

貴男様、貴館の益々のご清栄を祈念し、擱筆とします。」

ボランティア解説員を導入してから8年目、解説を受けた観客から拍手をいただくほどで、「価値観が変わった」、「勉強になりました」、「聞かないとわからないものね」など嬉しい反応が多いということです。「お礼状は何よりも嬉しい評価」と、解説員の喜びの声でした。

ボランティアによる解説は、5月から10月までですが、読者のみなさんも博物館では気軽に声を掛けてください。お客さまに合わせての解説が当館の特徴なので。ちなみに、町民の入館料は無料ですので、いつでもお越しください。研究のための助言やお子さんの自由研究なども喜んでお手伝いいたします。

(きだみずえ)



来館者に展示解説するボランティア(右)

## パクから学ぶ韓国語講座 参加者募集

講師 パク ピョンゼ 朴 炳 宰(アイヌ民族博物館特別研究員)

日時 7月8日(木)、15日(木)、22日(木)、29日(木)

時間 18時～(約1時間)

場所 アイヌ民族博物館 映像展示室(1階)

定員 15名

申し込み アイヌ民族博物館 学芸課 TEL 0144-82-4199

参加希望の方は、必ず事前にご連絡ください。

初心者向けです。

韓国語の学習をとおして、

食文化にも触れます。

※ 参加費は無料です。(教材費は実費を必要とする場合があります。)

車でお越しの方は職員駐車場をご利用ください。

## 担い手育成講座通信 樹皮採取と処理

アイヌ民族にとって樹皮は生活に欠かせないものでした。繊維から糸を作って反物を織り、着物にしたり、サラニブ(背負い袋)を作ったり、内皮を薬として服用したりなど使い道は様々です。

私たちは今回、6月14日に白老町竹浦で2本のニペシニ(シナノキ)から樹皮を剥ぎました。<sup>また</sup>鉋で木の幹に切れ目を入れ、樹皮を剥ぎます。とても力のいる作業で木の皮を剥ぐ作業はほとんど男性が行ないました。木の皮をねじる様に右に左に傾け、剥げる所まで剥いでいきます。アツニ(オヒョウニレ)は枝先まで、気持の良いぐらい綺麗に剥げるのですが、ニペシニはアツニと違い、枝先まで綺麗に剥ぐことができません。なので、木が立っている状態で剥げるとこまで剥いたら、チェーンソーなどを使って木を倒し、再び樹皮を剥ぎます。

樹皮採取を終えると、剥いだ樹皮の処理です。使うのは内皮なので外皮はカッターなどを使い取り除きます。つぎに、内皮を柔らかくする作業に移るのですが、去年はポロト湖に1カ月ほど浸けておいて樹皮を柔らかくして処理したのですが、今回はドラム缶を切った鍋に水を入れ、木灰を入れて煮て柔らかくするという方法をとりました。現在(6月16日)は、煮終えた内皮を湖に浸けている状態です。

私たちが次にやる作業としては、内皮が柔らかくなることでぬめりが出て来るので、次は川へ行きぬめりがとれるまで綺麗に洗います。そして、天日干しをし、乾いたら一通りの処理は終わりです。

この内皮を使う時には、内皮を水で濡らし、水分を含ませてから利用します。(かわむらこのみ)



シナノキの皮剥ぎ



皮を煮詰める

## カナダ ケネル市でアイヌ文化を紹介

5月13日～21日、私(学芸課 木田)は白老町主催の姉妹都市交流事業に参加し、カナダのブリティッシュコロンビア州ケネル市を訪問しました。ケネル市に滞在したのは、13日から16日までの4日間でしたが、その間、市内の小学校2校でアイヌ文化の紹介を行なってきました。中村前アイヌ民族博物館長がアイヌ民族の歴史と文化の話を、私がムックリ、トンコリ、カムイユカラの演奏を行いました。訪れた小学校のうち1校は、80%以上の児童が先住民族レッドブラフの子供たちが在籍する学校でしたが、子どもたちは皆、遠い国の先住民族の話や芸能に熱心に聞き入ってくれました。その後、レッドブラフバンドオフィス(地域先住民族の拠点)を表敬訪問しました。姉妹都市



レッドブラフ小学校での演示

交流事業では、先住民族居住地区の訪問は今回が初めてだそうです。私が交流事業のお役に立ててとても良かったと思います、今後の先住民族交流に発展することを願いました。(きだみずえ)